

## アイヌの人たちの歴史・文化

## 信仰

### 宗教観

アイヌの人たちは、自分たちを取りまく周囲の環境すべてに「ラマツ」と呼ばれる「魂/霊」が宿っていると考えており、人間に自然の恵みを与えてくれるもの、火や水、生活用具など人間が生きて行くのに欠かせないもの、あるいは天候など人間の力に及ばないものなどを「魂(神) = カムイ」として敬いました。その神々との関係が、アイヌの人たちの生活を良くも悪くもすると信じています。したがって神に対しては、悪い霊と良い霊を問わず敬虔(けいけん)に接します。この世界は、人間と神とがお互いに関わりあい影響を及ぼしあって成り立っていると考えています。

アイヌ文学の中には、宗教観が反映されています。アイヌの人々は、物語や伝説、体験談や人生の教訓などのすべてを口承によって語り継いできました。口承文芸のうち、物語性をもつものには大きく分けて英雄叙事詩、散文逸話、神謡と3つに分けられます。中でも、神謡(カムイユーカラ・オйна = 聖伝)は、動物や自然現象などの神が、神々の世界や人間世界で体験した自分の身の上を物語っているものです。

### 宗教儀礼

アイヌの人たちは、どの神に祈るときもまず、火の神(アベプチカムイ)に祈ります。また、さまざまなものに、それぞれの守護神があると考えており、崇拝に相当するパセオンカミ(位の高い神への祈り)やシンヌラツパ(先祖供養)などの宗教儀礼があります。

その他、熊送りで代表される各種のイオマンテ(魂送り)があります。

アイヌの人たちは、人間の住む世界(アイヌモシリ)と神々の国(カムイモシリ)があると考えています。カムイモシリに住む神々は、クマ、シカ、サケなどの毛皮や肉をまとい、アイヌモシリに遊びに来ます。まとった毛皮や肉はアイヌへの人たちへの土産なのです。アイヌの人たちは神々を賓客として丁寧に迎えます。食べ物や酒を供えて祈りを捧げ、もてなし、供え物を持たせて神の国へ送り返します。神々の国へ戻った神は、ふたたび姿を変えて人間の世界に現れると信じています。この魂送りは盛大かつ厳粛に行われます。また、送り儀礼は、動物だけとは限りません。生活上の必需品(かたちのあるもの)が「もの」として役立たなくなったとき、その「もの」の魂もまた神の国に「送り」という手続きを経て丁寧に返してやるのです。

### 儀礼の祭具

#### イノウ(木幣)

神々に祈る際に用います。  
イノウ自身が神であったり、神への供物となったり、役割は多様です。



#### イクバスイ(酒箸)・トゥキ(杯)

神々に祈る際に用います。  
イクバスイは、人間との祈り言葉を神々に伝える役目を持ちます。  
トゥキは、儀礼の際に用いるさかずきです。



【出典】 『アイヌの人たちとともに その歴史と文化』 (財)アイヌ文化振興・研究推進機構  
『世界民族問題事典』 梅棹忠夫 編 平凡社

## アイヌ語 豆知識

今回は、アイヌ語で主に祈りのときに使う言葉の一例を紹介します。

カムイ(kamuy) = 神	ラマツ(ramat) = 魂	カムイノミ(kamuy nomi) = 祈り
ヌサ(nusa) = 祭壇	キムンカムイ(kim un kamuy) = 熊	イコロ(ikor) = 宝物
タクサ(takusa) = 清め草	カムイチェブ(kamuy-cep) = 鮭	アペ(ape) = 火
コタンコロカムイ(kotan kor kamuy) = エゾシマフクロウ		オンカミ(onkami) = 礼拝する
チセコロカムイ(cise-kor-kamuy) = 家の神		

【出典】『萱野 茂のアイヌ語辞典』 萱野 茂 著 三省堂

## 研修事業等の取組

空知教育局では、平成20年度管内教育推進の基本方針にアイヌの人たちの歴史・文化等に関する学習の充実を重点施策の一つとして位置付け、教育局主催の研修事業等で取り上げるとともに、各学校において、意図的・計画的に指導が行われるよう働きかけを進めています。

### 新任校長研修会、新任教頭研修会

新任校長研修会では、アイヌの人たちの歴史や文化等に関する学習が適切に行われるよう、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構発行の小冊子を紹介し、説明を行いました。

また、新任教頭研修会では、教育課程の危機管理にかかわり、学習指導要領に基づき、アイヌの人たちの歴史・文化等を適切に取り扱う必要性について説明を行いました。



### 初任者研修

一般研修（第3期）において、アイヌの人たちの歴史・文化等を取り上げる講座を設定し、義務教育課に配属されているアイヌ教育相談員の協力を得て、講義を行う予定です。

## 小学校社会科副読本の現状

空知管内の各市町教育委員会が発行している小学校社会科副読本における「アイヌの人たちの歴史や文化等」に関する主な内容は次のとおりです。今後も、市町教育委員会において副読本を改訂する際には、適切に内容が取り扱われるよう働きかけを進めます。

	ページ数	主 な 内 容
A市	14	アイヌ語の地名 アイヌモシリ（むかしのアイヌの暮らし・アイヌのたたかい・かわる暮らし）
B市	12	アイヌの住むしずかな大地（アイヌの暮らし・ユーカーラ・コタン・コタンの四季） アイヌのたたかい（シャクシャインのたたかい・かわる暮らし）
C市	8	調べてみようアイヌ語の地名 アイヌ民族とのこうりゅう（アイヌ民族の暮らし・和人の移住とアイヌ民族・現在のアイヌ民族）

## アイヌの人たちの歴史・文化等に関する関連施設の紹介

	住所	電話番号	ホームページアドレス	特徴
函館市北方民族資料館	函館市末広町21-7	0138-22-4128	<a href="http://www.zaidan-hakodate.com">http://www.zaidan-hakodate.com</a>	国指定重要有形民俗文化財をはじめとするアイヌ民俗コレクションを展示しているほか、ムックリ製作や演奏体験をすることができます。
財団法人アイヌ民族博物館	白老郡白老町若草町2-3-4	0144-82-3914	<a href="http://www.ainu-museum.or.jp/">http://www.ainu-museum.or.jp/</a>	ジオラマ（情景模型）を用いてアイヌの人々の文化を展示しているほか、ムックリ製作や木彫り体験、料理体験、古式舞踊、講話などの各種体験学習ができます。